

## 読みを深める授業研究

## 1 読みを深める

国語科の学習で読みを深めることはとても大事な学習です。学習の中で子どもたちが自分自身で登場人物の心情の理解や情景描写の移り変わりに気づいてほしいものである。そのために今回心情曲線を用いて読みを深めることに取り組んだ。子どもたちに付けたい力として「場面の移り変わりから登場人物の心情の変化を読む」ことに重点を置いた。これまでに心情を読み取る学習は進めてきているが、場面の移り変わりが心情に影響していると言える。しかし場面の移り変わりから登場人物の心情を読むことは書かれていない隠された意味を理解することや書かれている文章から考察していくことがあり、読解力が乏しいと難しいと感じている。

以上のことを踏まえて子どもたちがなるほどと思える必要があると感じ、それらの課題と設定し、解決するために本実践を進めることにした。

## 2 心情曲線の活用

まず教材の価値として「三年とうげ」は物語の四部構成を備えながら短くまとめられており、場面の移り変わりを心情曲線に表しやすく話し合いに適した教材である。また「ごんぎつね」は兵十とごんの細かな心情が描かれており、子どもが心情曲線に表した際に違いが生まれやすく話し合いに適していると言える。そして「視点をもって文章を読むことで読みを深め自分と友だちとの考え方の違いに気づく力（読解力）4年生」と「視点をもって文章を読むことで、読みを深める力（読解力）3年生」と設定した。まず4年生3年生ともに場面の移り変わりを捉えながら登場人物の心情の変化を想像しながら読むことを目指したい。しかしただ物語を読むだけではその力はつかない。そこで物語を読み子どもたちが自ら読みたくなるように学習課題を設定した。学習課題があることで、子どもたちはその課題に向かう中で読みを深めていくことができるのではないかと考えている。

ここで、視点とは物語を読んでいくうえで大切になってくると考えているものである。まず会話・行動・場面の様子の3つの視点をもとに読みを進めていく。しかしこの3つの視点はバラバラに働かせるのではなく、主たる登場人物にスポットを当ててこの3つの視点を理解していくことで登場人物の心情の変化を捉えられるのではないかと考えている。この心情理解を可視化していくことでより子どもたちは心情の変化をとらえやすいのではないかと考えている。

## 【授業の構想】

## 【3年】

（全8時間）本時3/8

## 第1次（1時間）

- ・ 学習計画を立てる。

## 第2次（4時間）

- ・ おじいさんの気持ちの変化を読み取る。
- ・ トルトリの人物像を考える。
- ・ 心情曲線を活用したポスターセッション

## 第3次（3時間）

- ・ 紹介したい民話を選びポスターを作成する。
- ・ ポスターセッション

## 【4年】

（全8時間）本時3/8

## 第1次（1時間）

- ・ 学習計画を立てる。

## 第2次（4時間）

- ・ ごんの行動や会話から気持ちを考える。
- ・ 兵十との関係性からごんの気持ちを考える。
- ・ 心情曲線を活用したポスターセッション

## 第3次（3時間）

- ・ 紹介したい物語を選びポスターを作成する。
- ・ ポスターセッション

## 成果と課題

本実践において成果は学習課題を明確に設定し、見通しを持たせることで学習意欲が向上することが分かった。またその過程で学習計画を子どもたちと考え、学習課題に合うものにしていくことでより学習に向かうことができたと言える。

課題としては学習の焦点化を図ることが難しいと考えている。子どもたちだけで学習を進めていく複式教育では、教師が関わる時間が短いため学びを深めることが難しい。さらに学びを深めるためにもっとより具体的な発問やすぐに考えて始めることができるしかけを準備しておくことが求められる。

今後もさらにそうした部分を追究していきたいと考えている。